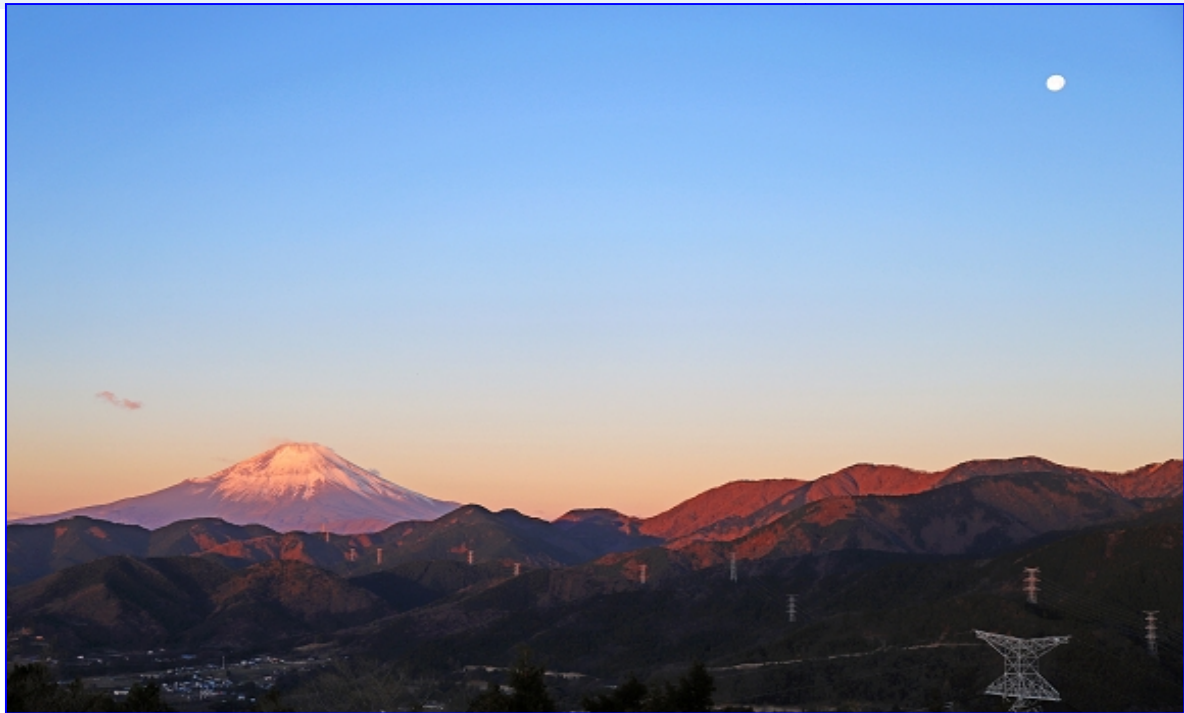


丹沢ボラネット瓦版

2021年2月号 No.109



↑写真 丹沢の山々と富士山のモルゲンロート 2021年元旦 葉の花台より

丹沢大山登山環境意識調査冊子の一部紹介

丹沢大山登山環境意識調査 丹沢大山ボランティアネットワーク



調査期間 令和元年6月25日～11月30日

目次

丹沢大山登山環境意識調査 概要	1
丹沢大山登山環境意識調査 報告	
1 はじめに	2
2 今回の調査のやり方	3
3 アンケート記入者の基本的資料	5
4 登山者の動向について	9
5 安全登山の意識について	13
6 丹沢大山入山の目的と魅力	15
7 登山道等設備の整備状況	17
8 丹沢大山地域行事への参加	18
9 水場利用について	19
10 丹沢大山入山者の環境意識度合い	20
11 自然環境を保全するための必要な取組み	24
12 まとめ	25
丹沢大山 登山環境 意識調査 アンケート用紙	26
グラフで見るアンケート結果	
1 男女別の観点から	28
2 安全の観点から	30



↑写真 滝登り・沢登りも丹沢の魅力（葛葉川上流）（表紙写真・三ノ峰から見た丹沢の山々）

丹沢大山登山環境意識調査 報告 丹沢・大山ボランティアネットワーク世話人会

1 はじめに

丹沢大山ボランティアネットワーク（以後「丹沢ボラネット」という）は、丹沢への入山者にアンケート調査を実施しました。丹沢大山地域への入山、登山に関わる利用の実態、目的、自然環境保護保全意識などを調べました。

この調査は平成16年度の「丹沢大山総合調査」、平成26年度「丹沢大山登山環境意識調査」以後、丹沢大山地域への入山者の環境意識はどのように変化したかを調べるのが目的です。

平成5年度以後の大規模な「丹沢大山自然環境調査」そして平成16年度からの「丹沢大山総合調査」を経て現在では第3期「丹沢大山自然再生計画」が実施、実行されています。

その結果、全国の先駆けとなる自然公園の素晴らしい復活が見え始め、神奈川県丹沢モデルとなり他県の自然再生事業へ影響を与えています。

「丹沢大山の水場水質調査」と以前行われていた「丹沢主要登山道利用実態調査」と共に丹沢再生の良い資料の積み重ねになれば幸いです。



写真 丹沢自然学校・登山環境意識調査アンケート活動中

場 所・西丹沢ビジターセンター

2 今回の調査のやり方

調査期間は令和元年6月26日～11月30日に行いました。

「四十八瀬川自然村」「伊勢原森林里山研究所」「北丹沢山岳センター」「町田グラウス山の会」「丹沢ゴミ調査会」「丹沢自然学校」の協力により、登山者へアンケート用紙を配布しました。

配布活動の日時は各団体の都合により行いましたので統一されていません。
入山者が多い土日祝日のアンケート活動が多かったです。

★今回はアンケート記入のお礼としてティッシュペーパーをさし上げました。



↑写真 西丹沢ビジターセンター
ティッシュペーパーと小型回収箱

西丹沢と秦野各ビジターセンター、新松田駅前松田町・お休み処「つむGO」、ヤビツ峠トイレ、大山観光案内所、伊勢原観光案内所、日向薬師バス停、鍋割山荘、みやま山荘、尊仏山荘、蛭ヶ岳山荘等に設置したアンケート回収箱で回収する方法で実施しました。(一部直接回収)
また、アンケート用紙は、回収箱を設置した施設へも置いて頂きました。
施設の利用者や宿泊登山者の協力も得られるようにしました。

特に宿泊施設利用登山者は、時間的余裕があるので筆記項目等も詳しくアンケート記入をして頂きました。丹沢環境保全のために建設的な良い意見を多く頂いています。

★ 今回はインターネットウェブサイトを使い、ボラネットHPから丹沢大山登山経験者もアンケート用紙記入が出来るようにしました。

丹沢ボラネット活動中

丹沢大山ボランティアネットワーク（丹沢ボラネット）では ボランティア団体が連携し 神奈川県（行政）とのパートナーシップのもとで丹沢大山の自然環境保全活動に取り組んでいます

活動紹介・登山環境意識調査はこちらからも！ ↓




ボラネットHPへ

↑写真 ティッシュペーパーの表紙

デザイン等は丹沢ごみ調査会の栗林さんを中心に作成しました。
丹沢大山ボランティアネットワークの活動趣旨と登山環境意識調査の
回答のお礼や回答記入の便利さや調査活動の県民へのPRを目的にしました。
WEB回答として入山者数に入っています。

調査項目は、平成16年に実施された丹沢大山総合調査（以後「総合調査」）
の「登山者の登山環境に関する意識調査」と前回平成26年度に実施された
丹沢大山登山環境意識調査を基に「回答者の属性や登山の準備状況、目的」、
「施設の整備状況や利用状況」、「自然環境への影響」など

11項目（前回12項目）を設定しました。
前回と回答質問等に少し変化が見られます。回答にも少し影響が見られます。
忙しい登山者のアンケート記入時間を配慮し、内容削減等を話し合い工夫した。
削減した質問項目 ①使用済みトイレ紙の持ち帰りの周知
 ②今後必要になる登山関連施設の要望
新たに加えた項目 ①入山者の登山コース等
新たに加えた追加小質問 ①水場の利用の目的

3 アンケート記入者の基本的資料

アンケート用紙回収数、872枚

西丹沢261枚、表丹沢319枚、大山・伊勢原72枚、山小屋130枚、
インターネット82枚、その他8枚を回収しました。

丹沢大山地域への入山者の割合%を表す時の基本数とします。

比較の資料（総合調査と前回調査の基礎数字）

参考文献

丹沢大山総合調査（平成16年度）の回収数（分類）

回収数 1128枚（男性718人63.7%・女性338人30.0%
・不明72人6.3%）

前回調査 平成26年丹沢大山登山環境意識調査の回収数（分類）

回収数 739枚 内 一般登山者643人（男400人 女233人
記載なし10人） ボラネット団体96人

資料の偏りを防ぐためボラネット96枚（参考資料とする）を
除きました。

一般登山者643人（枚）を基準にします。



↑写真 回収箱設置場所・ヤビツ峠登山口 登山者で賑わう

4 安全登山の意識について

★登山者の安全登山の意識について調査をしました。

質問3 次の物をお持ちですか？（前回から変更項目あり）

登山装備、準備と丹沢登山経験回数の関係を調べました。

登山の準備装備のうち運動靴を除き、経験者は所持している割合が高く、
地図はもとよりヘッドランプの予備電池まで持っています。

何回もの登山でのいろいろな経験から安全について学び、装備が充実して行く
様子が読み取れます。

	初めて	2～9 回	10 回以上	合計
登山靴	66 名	211 名	257 名	534 名 62%
運動靴	70 名	175 名	146 名	391 名 45%
紙地図	54 名	140 名	203 名	397 名 46%
アナログのコンパス	46 名	111 名	200 名	357 名 41%
位置情報アプリ	51 名	176 名	208 名	435 名 50%
ヘッドランプと電池	84 名	220 名	275 名	579 名 67%
記入無し	35 名	85 名	87 名	207 名 24%
合計	406 名	1118 名	1376 名	2900 名

ヘッドランプと予備電池は全体の装備準備の中で最高 67% (66%)
に達しています。

これは喜ばしいことであり前回より、わずかだが増加しています。
登山者にとっては何が起こるか分からないですから絶対の必需品です。

・今回は今までにない位置情報アプリと運動靴に関して調べました。

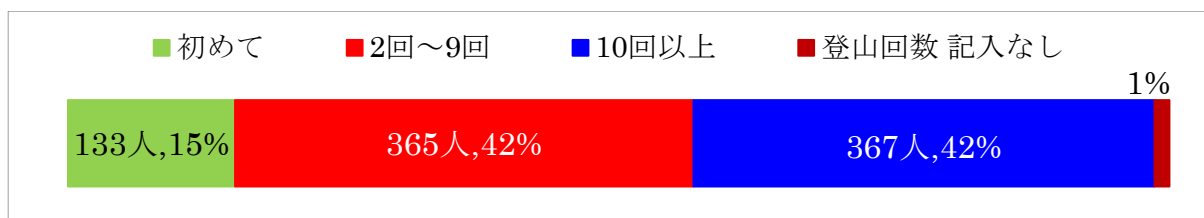
紙地図やアナログコンパスに取って代わる勢いで登山者に普及しています。
霧の中でも雨天でも現在地と地形が分かり、小さく軽い装備で便利なのです。

しかしながら紙地図やコンパスは今でも大切な登山必需品です。

登山者にとっては、安全で使いやすく小さく軽い、高品質な登山用品が普及してきたことは喜ばしいことです。

靴は登山靴が大部分ですが、運動靴が初心者には普通に見られます。

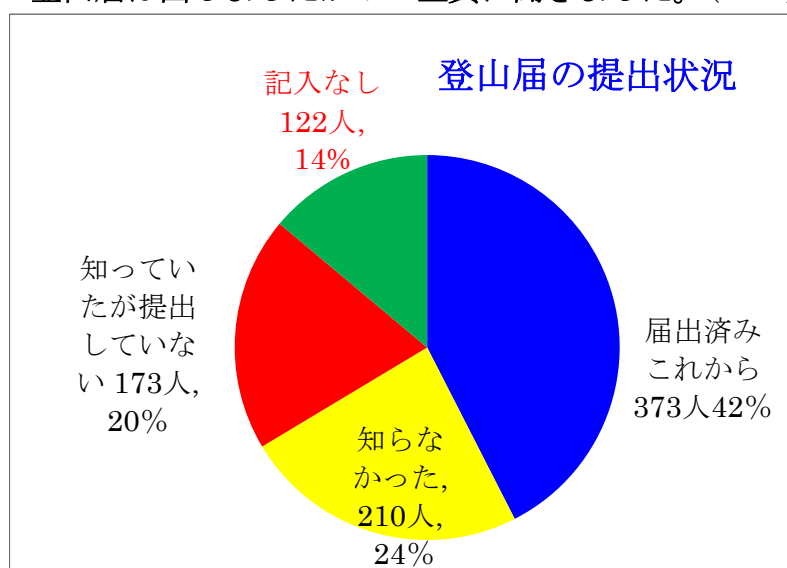
★登山回数別に登山者の割合を調べました。



割合としてみると 15%（133 人）の人が新しい丹沢登山者とみられます。

この人達への丹沢入山者心構え等の啓発を、毎年持続的に続けることが大切かと思われます。もちろんあらゆる機会を捉えて全ての人へ丹沢の環境等について理解をして頂くことも大事です。

質問 4 登山届は出しましたか？ 全員に聞きました。（ ） 前回調査



未記入者 122 人、14 %を表から除き、提出者を高めに割合を計算すると登山届の提出状況は、「届出済・これから提出」50%になります。

前回と比較すると、この計算でも（69%）→50%と大変に落ち込んでいます。基本的安全意識の低下が見られます。

「知っていたが未提出」23%、はどのように考えますか！

登山届の周知率は（92%）→73%と落ちこみ「知らなかった」（8%）→27%と増加しています。この変化もどのように考えれば良いのでしょうか？

★登山回数と登山届提出の関係も調べました。（表 次ページ）

・回数別周知状況も見てください。

10 回以上の登山者は **58%** で提出者が多いです。

周知率の落ち込みは初心者が原因と思われがちですがどうだろうか？

登山届提出を知らない人が回数順に **27%→32%→22%** であり、10 回以上の登山者もなんと 71 名 22% の人が知らなく、全体平均で **27%** です。

私達は真剣に対策を考えたいと思います。 解決策として登山口での呼びかけが考えられます。登山者の多い西丹沢は比較的登山口が限定されているのでビジターセンター等の呼びかけは有効と思われます。

表丹沢や東丹沢では登山口が分散され、その上キャンプの人や、観光、参拝客が多いので呼びかけが困難な面が多いです。呼びかけも大切ですが後追いの活動であります。

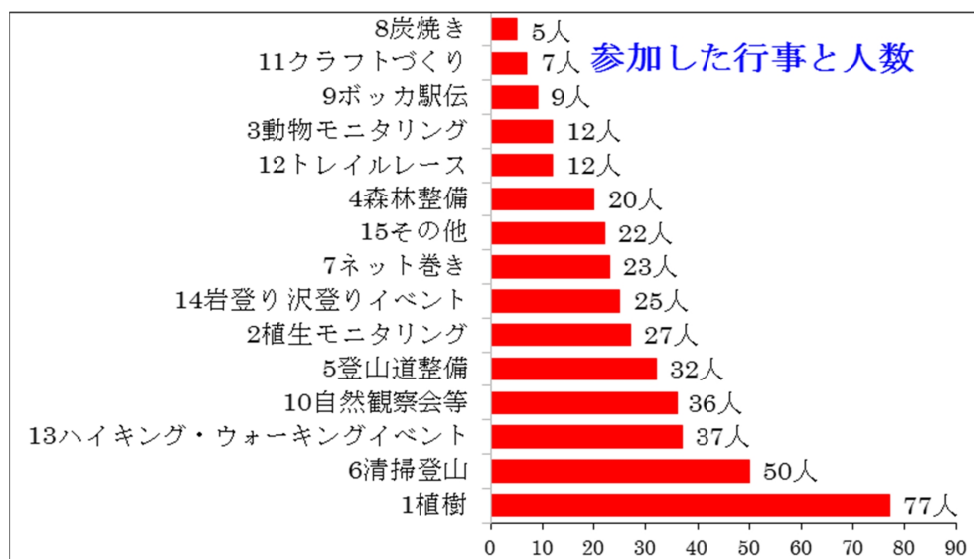
ボラネットや公的な機関が連携して、観察会等の行事を通して直接的、間接的に数多い機会での啓発活動が望まれます。

丹沢における遭難事故、死亡事故例などの解りやすい感情に訴える資料をつくり新聞や公報等で発表し、登山者の安全に対する意識向上の対策がのぞまれます。

	初めての登山者	登山回数 2～9 回	登山回数 10 回以上	合計
届出済・もしくはこれから提出	50 名 46%	139 名 44%	184 名 58%	373 名 50%
登山届を知っていたが提出していない	29 名 27%	77 名 24%	65 名 20%	171 名 23%
登山届について知らなかった	29 名 27%	101 名 32%	71 名 22%	201 名 27%
登山者合計	108 名	317 名	320 名	745 名

5 丹沢大山地域行事への参加

質問 8 丹登山沢大山地域で行事へ参加したことがありますか？



★丹沢大山地域で実施している行事等への参加状況を 14 項目の中から複数回答可能として選んでもらう形式としました。

前回調査は一位 1 植樹、二位 13 ハイキング等、三位 6 清掃登山でした。
今回調査も同じような傾向です。

・その他いろいろな行事があります。

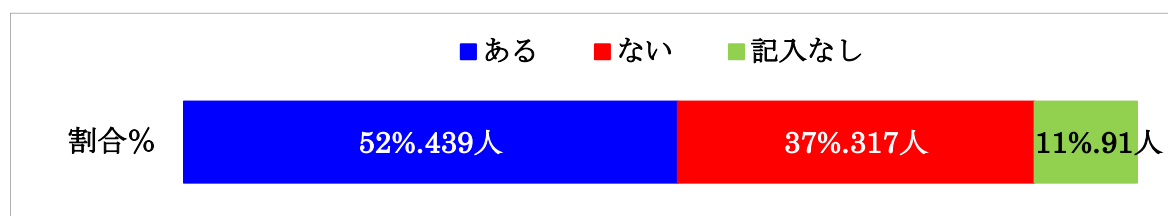
山マラソン、禊体験、節分祭ほか多数、クリーンキャンペーン、鹿調査トレイルレース、山開き式、大山登山マラソン、秦野丹沢まつり山開き式、ロゲイニング、学生時代に森林調査、ブナ調査、アドベンチャーレース、石あげ
丹沢地域への多くの入山者はイベントとしての登山ではなく
自分の目的、楽しみを持って入山をしています。

今後の丹沢の地域行事では、次世代へ丹沢遺産を引き継ぐため、丹沢の再生と観光を連携した環境重視の行事が望まれます。

登山者の登山動向を調べるにあたっては、キャンプや参拝者等を除き、
登山者のみへの質問が分かり易く、記入無しが減ると思われます。
反省材料としては、次の調査では発問の工夫が必要かなと思われます。

6 水場利用について

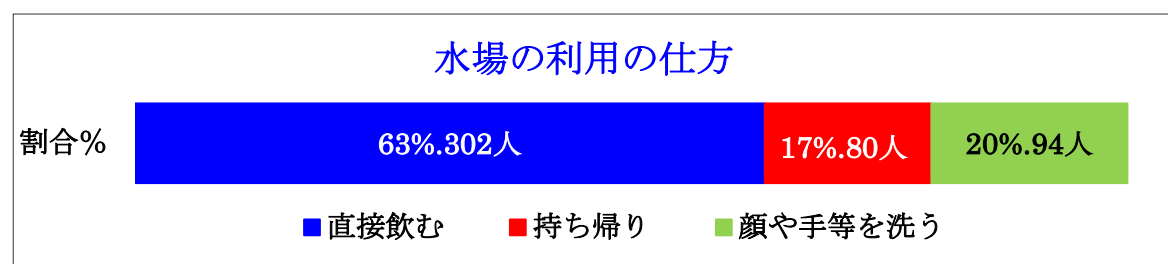
質問 9 丹沢大山地域の水場を利用したことがありますか？



水場の利用状況は「利用したことがある」439 人、52%（21%）
「ない」317 人、37%（37%）であった。（ ）内は前回調査
前回の調査より増加しています。

意外と利用者の割合は少ないです。季節や天気等も関係すると思います。

★続けて利用者に、どのような利用の目的かをたずねました。



今回のアンケートでは、利用者の中で水場をどのように利用しているか新たに問いを加えました。

水場で湧水等を直接飲む人が 302 人、半数以上 63%の人が飲むと答えています。

「多いと思えるか」「少ないと思えるか」どのような見方をすれば良いだろうか？

護摩屋敷の水、葛葉の泉、竜神の泉等はよく利用されています。

車でも行けるので登山者ばかりなく多方面の方に利用されています。夏などシーズン中は、いつも賑わっていて行列が出来ます。



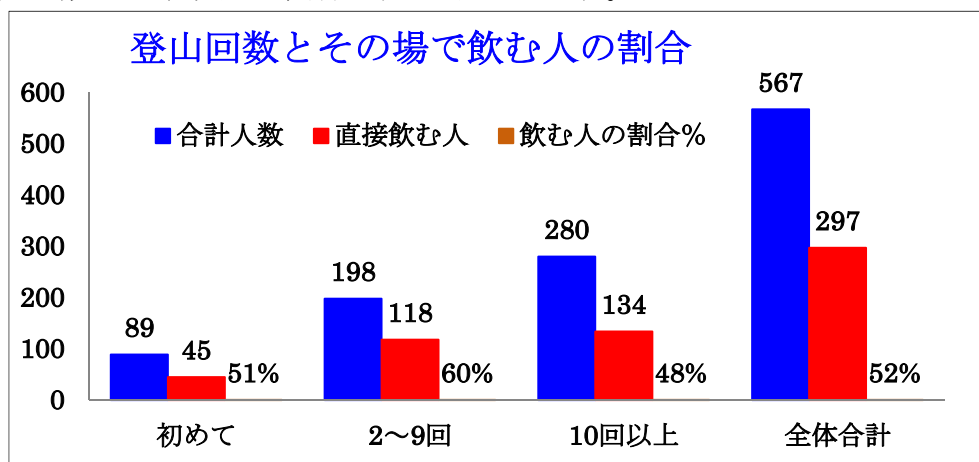
★登山者がその他利用した水場

塔ノ岳直下の水場（不動の水）、白石峠の下の水場、日向林道起点水場、蛭ヶ岳東部水場、春嶽湧水、西丹沢県民の森、**↑写真 護摩屋敷の水（ヤビツ峠北側）**仲ノ沢法面水場等を利用しています。大山の下社、大山の弘法の水、弘法山井戸、弘法の清水等は一般観光者も多いです。

水場の水質については丹沢大山ボラネットが、毎年5月に22箇所で継続的に水質調査を行っています。ボラネット瓦版や自然環境保全センター報告に水質調査報告が載っています。体験活動等の時に利用をしてください。

水場の利用は、基本的には大腸菌や一般細菌の有無に関係なく「煮沸」しての利用が原則です。

★登山回数と水場利用の関係を見てみましょう。



前回の報告書では初心者は利用が少なく（8.4%）、また女性も男性と比べると利用に大きな差が有り、少ないと報告されていました。

今回は登山回数とも男女別でも、あまり極端な関係はありませんでした。水場で水を飲む行為は2～9回の登山者は、198人中118人、60%が多いです。

丹沢に慣れ始め、水に対して警戒心が薄れたのかも知れませんが
回数との関係はあまり見られません。

沢水を飲む飲まないと登山回数、安全意識は有意な相関関係が見えません。

7 丹沢大山入山者の環境意識度合い

質問10 登山者の行動に対する自然環境への影響度合いをたずねました。

★登山者の環境負荷意識について

今回調査では、前回調査からトレイルレースなど一項目を減らしました。
環境意識度合いについてはH16年、H26年の調査と比較してみます。

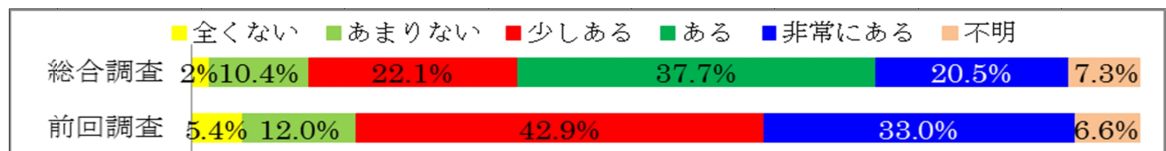
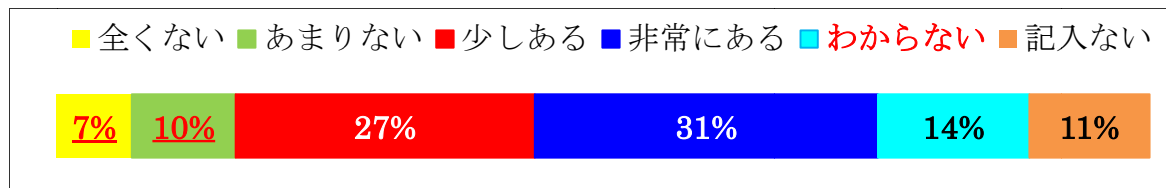
前2回と比較して見て、前回は「非常にある」が極端に増えていたが、今回は全ての項目で前回より「非常にある」が極端に減少しています。

また「非常にある」+「ある」+「少しはある」の和も減少しています。
どのように解釈が出来るのでしょうか？

このような結果が出た原因を見つけ、私達ボラネットを含めた
環境保護保全啓発活動の振り返り資料にしたいです。

前回・今回調査の回答項目には濃い緑「ある」が無く、今回は「わからない」
が追加されています。グラフを比較するときに考慮し読み取りをお願いします。

① 自家用車乗り入れ



環境への影響が前回よりは「非常にある」が20.5%→33.0%→31%と減少して
いる。「非常にある」に（「ある」+「少しある」）を加え三回の調査を
比較しても81%→76%→58%と今回調査では減少しています。

自家用車の入山は環境に影響あると思う丹沢入山者が減っています。

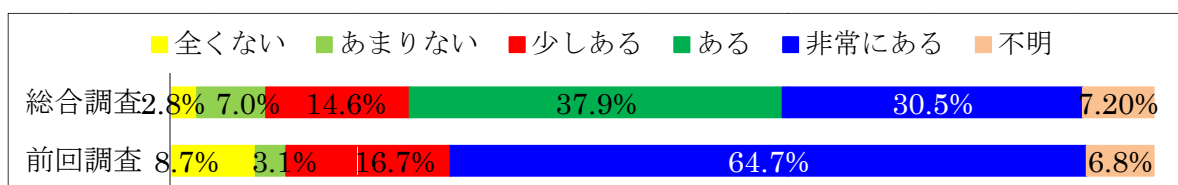
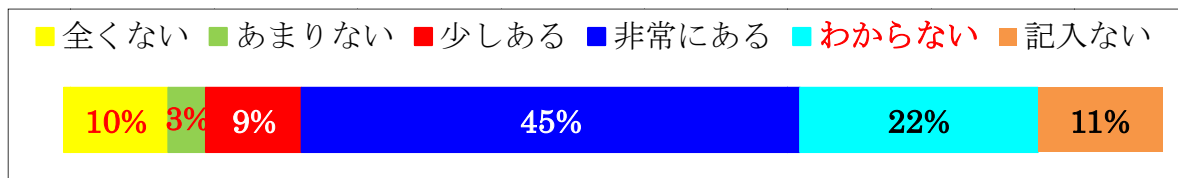
丹沢の自然林の枯渇現象が大気汚染との関係があるのに残念な減少です。
低燃費のハイブリッド自動車が増えたのが原因でしょうか？

自然林の立ち枯れや枯死と大気汚染との関係を知らない入山者が増えた可能性
もあり様々の原因が考えられます。反面、日本でも自家用車乗り入れ禁止、
バス等公共交通機関利用の地域があります。

このような他地域での経験を生かしたいものです。そして環境教育などを
通しての啓発を進めていきたいものです。

自家用車の乗り入れについて、自然環境への影響調査でも、総合調査時と比較して影響が「全くない+あまりない」と回答している割合が増加していることから、車の利用者も増加している傾向がわかります。 12.4%→17%

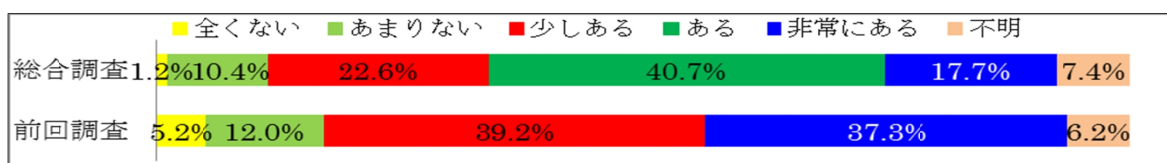
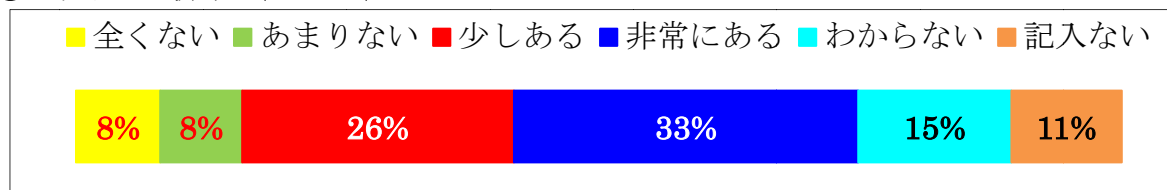
② 野生動物へのエサやり



前回よりは「非常にある」は30.5%→64.7%→45%と減りました。
同様に「ある」+「少しある」を加えると83%→78%→54%と減少しました。
 エサやり行為に対しては、野良猫や犬へのエサやりと同じように環境に対する影響が考えられない人が多くなっていると思います。

餌を与えることにより野生動物は繁殖し、人里に近づき農作物等に対して影響を与えるようになり、丹沢ではシカ、サル、イノシシ等が目立っています。
 丹沢に於いては今後「エサやり」問題以外にも特定外来種を含むツキノワグマ等の哺乳類、鳥類等との関係や距離感も大切になってきています。野生動物との共存と言うより、活動地域空間を分けた共存が好ましいです。

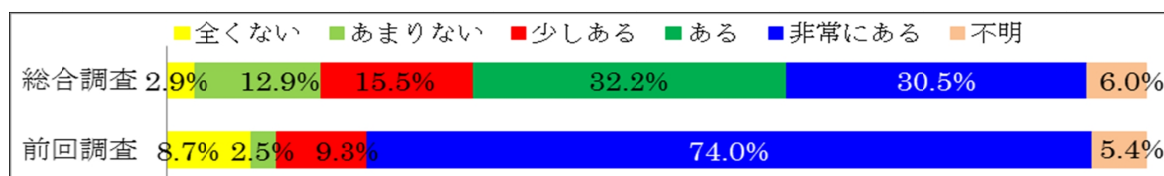
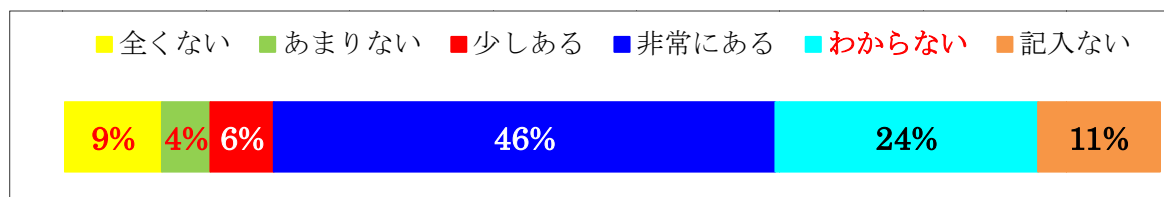
③ 野外での排泄（トイレ）



「非常にある」は17.7%→37.3%→33%と前回より減りました。
「非常にある」+「ある」+「少しある」は81%→77%→59%と減りました。
 ごみのポイ捨てと違い「環境に影響ない」と思う人が増えています。
 自然のサイクルの一部と思う人が多いのか、それとも考えない人が多いのか？

★今回はアンケート調査項目にないが、使用済みのトイレ紙の持ち帰りについて

山小屋の協力でビニール袋が用意されている所もありますが、持ち帰りです。
ゴミのポイ捨て



「非常にある」は30.5%→74.0%→46%と減りました。

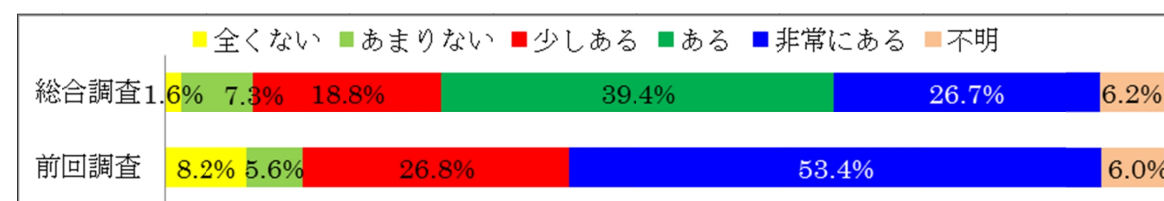
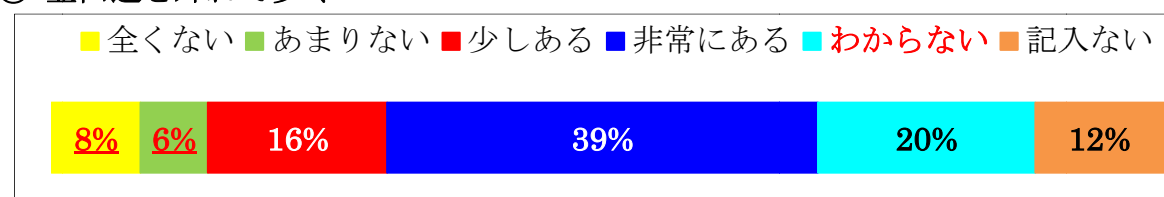
「非常にある」＋「ある」＋「少しある」は78%→83%→52%と減りました。

全国的には富士山などの世界遺産指定を通じて、ごみ問題などにより指定されなかった経過があり、ごみ問題に対する環境意識が向上して来ました。

最近ではレジ袋やマイクロプラスチックごみが話題に上がりました。

これらのごみ問題が周知され丹沢入山者へも大きく影響がある事を期待します。環境啓発活動により「影響有る」が90%を超えることが望まれます。

④ 登山道を外れて歩く



「非常にある」は26.7%→53.4%→39%と減りました。

「非常にある」＋「ある」＋「少しある」は85%→80%→55%と減りました。

「影響がない」は8.9%→13.8%→14%と変化をし、誤差の範囲の小さい変化です。

登山道が整備され、周囲の植物が豊かに回復しているので、環境保護事業への理解が深まり環境意識向上へ、つながっていると思えます。

環境意識後退の数字は「5 わからない」選択肢を付け加え4項目→5項目へ増加したのが一因とも考えられます。反対回答の「環境への影響はない」は増減幅が小さい事（誤差の範囲）から推測できます。

またいろいろ複雑な環境問題の発生により環境意識が向上し、反対に「わからない」の増加をもたらしている、との見方もあります。

★項目 登山の際、自然環境に気を付けていることがありますか。(文章記入)

- ・登山道を外れない様に気を付けている。
広がって駄目にならないよう真ん中歩く。
- ・木道のある箇所は必ず木道を歩く。
大倉尾根では水切りを掃除する。
- ・ゴミを落とさない、アメ等の小さなゴミが落ちないように、見つけたら拾う。
- ・残飯の持ち帰りの徹底、携帯トイレ持参
→写真 仲ノ沢法面水場清掃が行き届いています



8 自然環境を保全するための必要な取組み

質問 1 1 丹沢大山の自然環境を保全するためには、どのような取組みが必要ですか? (記述回答)

いろいろな環境への取り組みで正反対の意見も多く見られました。

★自然のままが良い。整備は必要、防災環境保全のためにして欲しい。

- ・人が多すぎであるし、山の崩れも多いため様々なレベルの人が楽しめるよう整備が行き届いていますが、なるべく自然のままが良い。
- ・木道がよく行き届き、整備状況が良く初心者が多い反面、悪い所は渋滞する。
- ・街の公園化する必要は無く整備された山は好きではないが整備は必要と思う。

★入山料、入山規制や自家用車の乗入れ規制、オーバーユース対策等について

- ・入山料(入山料や駐車場料金、
公衆トイレ利用料の徴収)の検討してみる。
 - ・登山口で一人入山料 1000 円を頂く。
- オーバーユース対策、自家用車の規制、
登山者の分散化も必要。

→写真 50 年前 蛭ヶ岳山頂付近には林冠ギャップ
(草地) も有ったが、豊かな自然が有った。



★イベント等に対する意見。

厳しい意見が多いです。主催者等は事業趣旨を知らせ、お互いに理解し合う事が大切です。

- ・トレランを禁止するべきである、歩道草地を大きく傷つけている。歩く人に対しても脅威を感じさせる。観光ツアー、イベント等と自然保護、保全は対立するのではなく共存の道を捜したいと思う。

★水源環境保全税等について

水源環境保全税について入山者には、まだまだ周知不十分と思えます。

トイレ整備など環境整備に使われていることのPRも大切です。

9 まとめ

丹沢大山登山環境意識調査は令和元年度に丹沢大山ボランティアネットワーク参加団体の協力で実施されました。そして令和2年度にボラネット世話人会がアンケートを冊子の形でまとめました。

平成から令和の時代が変わった令和元年に調査が行われました。この年の環境問題は地球環境問題で、自然環境と言うよりプラスチックゴミやビニールレジ袋等が海洋生物など地球環境汚染問題として大きく取り上げられ始めた時期です。

丹沢大山入山者の環境意識は調査結果を見ると、残念ながら以前の調査時よりも僅かではありますが、後退傾向が見られました。

令和2年度は新型コロナウイルス感染症禍の中で、ボラネット事業は次々と中止を余儀なくされています。環境教育分野でも実践活動等でも停滞してしまいました。

このような状況の中で新しい生活様式の中で、私達ボラネットは事業へ取り組んでいきます。そして今後、最も大切になってくるのは環境啓発活動や体験活動かと思われます。

丹沢大山総合調査以来、神奈川県とボランティア団体は連携して、丹沢の環境保護保全へ取り組んできました。

自信を持って言わせていただきたい事は、丹沢大山地域は今までの先進的取り組みにより、自然環境は目に見える形で復活の傾向にあり、自然の回復が軌道に乗ってきた事です。登山道や危険箇所、トイレ等も整備されて来ました。

それに伴い丹沢入山者も、様々な事業、体験活動の中で環境意識をも向上をしてきました。それは総合調査、前回の調査でも肯定的意識比率が高い事で明らかにされています。

今回のアンケート結果を踏まえ令和の時代に合ったボラネット活動にしたいものです。

働き方改革、新しい生活様式等により新しい丹沢登山者、キャンパー、観光来訪者等が増え「環境啓発活動が全ての入山者には行き届いていない」と思われます。

私達の課題は多方面から県民全体に向け、数多くの場面で積極的に環境啓発活動を進めて行くことです。

次世代の神奈川県民へ豊かな自然のある丹沢大山の自然遺産、文化遺産を遺したいものです。



参考文献「丹沢大山総合調査学術報告書」
平成26年度 丹沢大山登山環境意識調査

↑写真 塔ノ岳山頂からの展望
親から子へ遺す丹沢大山自然文化遺産

丹沢大山ボランティアネットワーク参加団体行事等案内

西丹沢の自然にふれあう会



2019 年
12 月例会
仏果山

2020 年 6 月例会 ゴーラ沢出合
ソーシャルディスタンス



◆ 月例清掃登山

「西丹沢の自然にふれあう会」では、清掃登山を行っています。

軽いハイキングができる方、どなたでも参加大歓迎です。

2-4 月の予定は、次のとおりです。集合の後、徒歩またはバスを利用して目的地に向かいます。

集合時間などは、月初に案内されます。中止・行先変更などの可能性もあります。

詳細はお問い合わせ下さい。

mnnumano@icom.home.ne.jp 沼野正睦

月 日	行先	集合など
2/27 (土)	・鶴巻温泉駅～吾妻山～善波峠～弘法山～権現山～秦野駅	小田急線鶴巻温泉駅 バス利用
3/27 (土)	・大倉バス停～大倉尾根～堀山の家(ピストン)	小田急線渋沢駅 神奈中バス大倉行 バス利用
4/24 (土)	・谷峨駅～大野山(ピストン)	JR 御殿場線谷峨駅

令和 3 年度北丹沢神ノ川流域の山開きと 周辺整備活動協力依頼のご案内

神ノ川周辺では昨年秋の台風 19 号により激流と大量土砂が発生し、多大な被害を受けました。当神ノ川ヒュッテも一部被害がありましたが、神ノ川林道の復旧がままならず現地へ赴くことも叶わぬまま一年が過ぎてしまいました。今年春の山開きも中止となり、神ノ川の現状が心配な日々を送っております。来年の山開きには是非みなさまのお力をお借りしたいと存じます。ボランティア活動のみなさまには日帰りで飲み物・弁当持参で当日の保険加入が参加条件です。保険については日山協のスポーツ保険の加入を受け付けております。お申し付け下さい。

記

1. 開 催 日 令和 3 年 4 月 11 日（日）
2. 集 合 午前 10 時（自動車で来所可）
3. 会 場 地 折花神社境内 山開きの記念行事を開催
4. 山開き終了後 徒歩にて神の川ヒュッテへ移動し復旧作業

以上

丹沢ボラネット瓦版 2021 年 2 月号（通巻 109 号）2 月 16 日発行
丹沢 大山ボランティアネットワーク世話人会代表 小林 昭五